

第95期 株主通信

2018年 1月 1日から
2018年12月31日まで

サッポロホールディングス株式会社

証券コード 2501



SAPPORO



01 [トップインタビュー]
従来の事業構造を大きく変え、
次なる成長ステージに
つなげていきます。



05 [特集]
セグメント変更によるマネジメント体制強化



07 [CSR]
ステークホルダーの皆様との
CSR4つの約束



09 [サッポログループトピックス]
サッポロライオンは
今年で創業120周年



13 [研究開発]
SBL88乳酸菌を起点とし、
研究成果に基づく価値提案を加速
世界的ビール学会で報告：
ビールの「泡の色」を評価



従来の事業構造を大きく変え、
次なる成長ステージにつなげていきます。

代表取締役社長

尾賀 真城

このたびの「平成30年北海道胆振東部地震」によりお亡くなりになられた方々へお悔みを申し上げますとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

被災地が一日も早く復旧し、被災された方々の生活に平静が戻りますことをお祈りいたします。

Q1

2018年度を振り返り、
経営状況を総括願います。

国内ビール類と缶コーヒー飲料の低調により減収。
利益面は米国子会社の減損損失が響きました。

2018年度は、国内ビール類における発泡酒・新ジャンルの苦戦や、飲用スタイルの変化を受けた缶コーヒー飲料の売上数量減少に加え、利益面では米国ビール事業にかかわる減損損失を計上したことなどにより、計画を下回る結果となりました。市場の変化に対応すべく、経営の舵を大きく切るべき段階にあり、後ほどご説明申し上げる通り、事業構造を大きく変えていきます。

結果として当期の連結業績は、売上収益5,218億56百万円(前期比2.7%減)、営業利益108億28百万円(同15.4%減)、税引前利益94億92百万円(同17.7%減)、親会社の所有者に帰属する当期利益85億21百万円(同18.6%増)となりました。

営業状況を事業セグメントごとに振り返ると、国内酒類事業は、「サッポロ生ビール黒ラベル」が4年連続で売上を伸ばし、「エビスビール」単体の売上も堅調でしたが、全体としては発泡酒および新ジャンルの販売減少が響き、減収・減益となりました。そうした中、成長分野であるRTDは、昨年8月に発売した「サッポロチューハイ99.99<フォーナイン>」が好スタートを切り、市場シェア拡大への足掛かりを築いています。

国際事業のうち北米展開は、カナダのスリーマン社に

よるビール販売が堅調を維持しました。一方でサッポロUSA社と2017年度中に子会社化したアンカー社による米国酒類販売は、総需要が低迷する中、特にサンフランシスコではマイクロブルワリーの台頭などで競争が激化し、業績が悪化しました。これを受けて当期は、アンカー社における減損損失43億円を計上しました。また、カントリーピュアフーズ社による米国飲料販売は、昨年4月に実施した経営統合の効果が表れたものの、現地飲料市場の変化が進む中で対応を要する状況にあります。

東南アジア展開は、サッポロベトナム社が販売方法の改善と輸出量の伸長により、黒字転換を果たしました。

食品・飲料事業は、前述の通り缶コーヒー飲料の販売減少が響き、全体では低調に推移しましたが、レモンや大豆・チルドは売上数量が大きく増加しました。特に豆乳ヨーグルトが好評をいただいております、今後の新しい価値提案とさらなる市場拡大に向け、群馬工場の生産体制を増強しています。

外食事業は、人財の獲得難や原材料価格の高騰による厳しさが続く中で、全体の売上は前期を下回りましたが、コスト抑制策が奏功し、業績は改善しました。

不動産事業は、各主力物件が安定的に高稼働率を維持しつつ、賃料の引き上げによる収益性向上も果たし、計画を上回る成果を上げました。また当期は、2物件について売却益を計上する一方、恵比寿駅周辺の再開発にかかわる「まちづくり事業」として3物件の取得を決定し、次なる事業拡大に向けた布石を打ちました。

Q2

今後に向けた事業構造の変革をご説明願います。

真のグローバル企業に向けて体制を再編。各社の役割をより明確にするとともに、事業の選択と集中を図ります。

当社グループは、2019年度を「変化の年」と位置付け、事業構造の変革に着手しました。

その趣旨は3つです。1つ目は、サッポロホールディングス社と事業会社の役割を明確にすることです。サッポロホールディングス社としての機能を見直し、スリム化を図っていきます。2つ目に、事業の中で「やめるもの」「注力していくもの」を明らかにしていくことです。多くの事業を手掛けるのではなく、注力していくべき事業は何かを見極め、それを鮮明に選択していきます。最後に、真のグローバル企業としての体制を目指すことです。従来、海外事業は一部の専門部隊が担っていましたが、それを事業会社が国内から海外まで責任をもって担う体制に変更します。それにより、調達、製造、物流、販売からブランド管理、ガバナンスまで一貫した体制への転換を図ります。

その結果として、報告セグメントの変更を行います。従来は、「国内酒類」「食品・飲料」「外食」「不動産」という事業別の区分に加わる形で、酒類および飲料の海外展開を推進する「国際」事業を設け、海外における各事業（ポッカグループを除く）をサッポロインターナショナル社が統括していました。これを今回の再編にて、報告

セグメントを「酒類」「食品飲料」「不動産」の3区分に組み直しました。

※ 報告セグメント変更の詳細は、p5-6をご参照ください。

海外酒類事業の統括体制については、今年1月1日付でサッポロインターナショナル社をサッポロビール社へ吸収合併し、サッポロベトナム社をサッポロビール社へ移管しました。

ただし、北米での酒類事業については、今年4月のサッポロUSA社とアンカー社の経営統合を控え、今後のM&Aを含めた事業戦略を描いていく途上にあることから、サッポロホールディングス社の管轄としています。アジアでの酒類事業は、サッポロビール社の統括のもと、「SAPPORO」ブランドのアジア地域における価値向上を図るべく、東アジアへの酒類輸出事業に加えて、サッポロベトナム社を拠点とする東南アジア・オセアニア展開を推進していきます。

さらに2019年度からは、欧州での酒類事業を本格始動します。アジア展開と同様にサッポロビール社の

統括のもと、欧州全域における「SAPPORO」ブランドの価値向上を目指し、今春オランダに設立予定の欧州販売子会社を通じてプレゼンスを高めていきます。

また当社グループは、今回の事業構造変革によって、ここに述べてきました酒類事業の海外展開のみならず、国内酒類における既存ビールブランドの強化やRTDの拡大、食品飲料事業におけるレモンおよび大豆・チルドのさらなる成長、不動産事業における恵比寿・札幌・銀座のまちづくり推進などを重要カテゴリーと位置付け、選択と集中を進めていく方針です。

Q3

2019年度の見通しについてお聞かせください。

事業構造の変革と重点カテゴリーへの注力により、収益性を高め、成長を目指します。

「第一次中期経営計画2020」の3年目となる2019年度は、事業構造の変革を中期経営計画が目指す「成長

酒類事業



サッポロ生ビール
黒ラベル



エビスビール



グランポレール
メリターージュ



ビヤホールライオン
銀座七丁目店



スリーマン社
ゴルフ工場(カナダ)



サッポロベトナム社
ロンアン工場(ベトナム)

ステージへの移行」につなげていくために、スピードと徹底した取り組みが求められる1年間であると捉えています。新たなセグメント体制のもと、重点カテゴリーに注力した成長戦略を着実に遂行し、売上収益を拡大していきます。利益面においては、事業構造の変革に伴う一部の費用増加を想定していますが、主力ブランドの強化により収益性を高めつつ、経営資源の効率的な配分を行うことでカバーしていきます。

なお2019年度は、10月に消費税の引き上げが予定されており、販売への影響を懸念する向きもあります。しかし「お客様が本当に求めている、価値ある商品をいかに作り出し、提供するか」という観点に立ち、しっかりと取り組みを進めていく考えです。

以上を前提として2019年度の連結業績は、売上収益5,488億円(当期比5.2%増)、営業利益126億円(同16.4%増)、税引前利益113億円(同19.0%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益87億円(同2.1%増)と増収・増益を見込んでいます。

Q4 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

★ SAPPOROを『酒』『食』『飲』とまちづくりのブランドへ、さらに社会と共生するブランドへと発展させていきます。

当社グループは昨年、これまでのアニュアルレポートとCSRレポートを一つにまとめた「統合報告書」を発行し、株主の皆様をはじめとするステークホルダーに企業活動をお伝えする取り組みを強化しました。今後は、こうした非財務情報の発信を含むコミュニケーションをさらに進化・充実させ、当社グループの事業を通じた社会価値の創造について、また環境保全や地域社会への貢献について、より多くの人々にご理解とご支援をいただけるよう努めてまいります。

「SAPPORO」ブランドを、『酒』『食』『飲』の「もっとおいしい」「もっと楽しい」をお届けするブランドから、まちづくりを通じて地域に貢献するブランドとして、さらには環境を守り、社会と共生するブランドとして広く世界中の人々に認知され、親しまれるために、私たちは価値づくりを大きく発展させてまいります。

食品飲料事業



ポッカサッポロ社商品



神州一味噌社商品



カントリーピュアフーズ社商品

不動産事業



恵比寿ガーデンプレイス



GINZA PLACE
(銀座プレイス)

セグメント変更によるマネジメント体制強化



当社は、2017年1月発足の新経営体制のもと、長期経営ビジョン「SPEED150」の第一次中期経営計画において、グループの成長促進へ「経営資源の戦略的シフト・セグメント経営の事業構造変革と推進」による「基盤機能強化」を掲げています。

グループの持つブランドを育成・強化しながら確実な成長を目指し、その推進に向け、これまでの5セグメント体制から事業軸による成長を志向した3セグメント体

制へと変更し、マネジメントアプローチによるセグメント管理を一層強化してまいります。

- 1 従来の「国内酒類事業」「国際事業」「食品・飲料事業」「外食事業」「不動産事業」の5セグメントを、「酒類事業」「食品飲料事業」「不動産事業」の3セグメントに変更します。
- 2 従来の「国際事業」はそれぞれ「酒類事業」と「食品飲料事業」に分割、また「外食事業」は「酒類事業」に含めることでセグメント管理を強化していきます。

3事業体制へ

After (変更後のセグメント 2019~)



3 各事業における環境予見と当社の状況を踏まえ、成長の方向性を以下のとおり定めます。

酒類事業

マザー事業として、日本を含むアジア戦略の一体推進と北米事業の一層の投資による強化を図ります。

重要なお客様接点の場である外食事業との連携を強化し、収益力向上とグループ間シナジーを追求します。

食品飲料事業

食品事業の領域拡大と国内外における飲料事業のスピードある収益性向上・改善を実現します。

不動産事業

「札幌」「恵比寿」「銀座」等、当社グループと関係性が深いブランド貢献とまちづくりを推進し、圧倒的・安定的な収益に貢献します。

ステークホルダーの皆様とのCSR4つの約束

サッポログループが持続的に成長し、社会から求められる企業であり続けるために「CSR重点課題」を特定し、「4つの約束」を定めています。

CSR重点課題の解決に向けて世界共通の目標であるSDGs（持続可能な開発目標）に対応した中長期目標を設定し、その取り組みを推進していきます。



CSR重点課題と4つの約束
概念図

約束
1

「酒・食・飲」による潤いの提供

酒類・食品飲料9工場 FSSC22000認証取得

サッポログループでは「FSSC22000^{*}」の認証を2018年9月現在酒類主要8工場で取得しています。

食品飲料工場では既に群馬工場が取得しており、今後もグループ全体で品質保証レベルの向上に取り組んでまいります。

※FSSC22000：Food Safety System Certification22000の略で食品製造組織に向けた国際的な食品安全マネジメントシステム規格。



グループ内取得第1号(2016年)のポッカサッポロフード&ビバレッジ群馬工場

約束
2

環境保全

サッポロビール千葉工場が緑化優良工場 として関東経済産業局長賞受賞

サッポロビール千葉工場は、竣工以来30年間継続してきた緑化推進活動と地域貢献活動の功績に対し、2018年10月31日に「緑化優良工場等関東経済産業局長賞」を受賞しました。これからも地球環境に配慮した主体的な環境活動を通じて社会に貢献できる工場を目指していきます。



サッポロビール千葉工場と工場長 吉元 義久

約束
3

社会との共栄

株主優待制度を活用した次世代育成支援

サッポロホールディングスでは、2008年度より優待品の代わりに寄付を選択していただいた株主様の寄付金に当社が同額を加えた金額を社会貢献に活用しています。2012年度からは東北の復興支援をしており、2018年度は次の3つの取り組みに対して総額345万6,000円を寄付しました。

- 岩手県大船渡市へ「椿」をテーマとした学習支援
- 岩手県大槌町へ「小中一貫教育の柱“ふるさと科”学習支援」
- 福島県へ「国内外の高校生が発信する福島の食の安全”事業支援」

「国内外の高校生が発信する福島の食の安全”事業支援」では、8月9日に恵比寿ガーデンプレイスにて福島・東京・



広島・フランス・台湾・フィリピンの高校生約50名が参加した「国際高校生放射線防護ワークショップ」の成果発表会が開催されました。

参加した生徒それぞれが、風評・廃炉・除染といった福島の課題を体験し、福島の豊かな魅力や食の安全性が正しく発信されていない現状を、高校生の視点で発表しました。

本年も引き続きこの活動を支援する予定です。株主の皆様のご厚意にあらためて御礼申し上げます。

約束
4

個性かがやく人財の輩出

第2回 日経「スマートワーク経営」調査で高評価
サッポログループの人事戦略と外部評価

サッポログループでは従業員一人ひとりを最大の財産「人財」と位置づけ、「サッポログループ人財マネジメントビジョン」の達成に向けた取り組みを進めています。

人事・人財の改革の成果の一つとして、2018年には日本

サッポログループ人財マネジメントビジョン

サッポログループの最大の財産は、人財である。人財一人ひとりがブランドそのものであり、人財の個性と実行力こそがブランドをかがやかせる。グループの人財が、心身ともに健康で、元気で明るく前向きなエネルギーをもって新たな領域に挑戦・越境し、サッポログループで働いてよかったと思える企業をめざす。

経済新聞社の「スマートワーク経営」アンケート調査結果において、当社は昨年より評価がアップし、全業種でベスト44位以内に、食品製造業では上位7社のグループに入りました。また、別途実施された「従業員調査」結果でも高い評価を受け、1.自分にとって働きがいのある会社である、2.自分の仕事にやりがいがある、3.職場のコミュニケーションは良好だ、という3項目で全体より高評価となり、新聞紙面にも掲載されました。

今後も、グループの持続的な成長につながる改革や人財育成を進めてまいります。

NIKKEI
Smart Work

★★★★★ 2019 Best 44



サッポロホールディングス
取締役 人事部長 福原 真弓

サッポロライオン

サッポロライオンは 今年で創業120周年



120周年記念限定醸造ビール販売
「ビヤホールライオン」「銀座ライオン」でしか
味わえない限定醸造ビールをご用意

サッポロライオンでは創業120周年を記念して、限定醸造ビール第1弾「クリスタルヴァイツェン」を1月初旬から2月上旬まで販売しました。小麦麦芽を使用した苦みが少なくフルーティなヴァイツェンビールのすっきりとした飲み飽きない味わいは多くのお客様にご好評いただきました。

今後も年内に、他の限定醸造ビールを数種をご用意する予定です。「生きている喜び」をお客様に提供することを信念におくサッポロライオンは、こだわりの生ビールを通じて、ビヤホールの楽しさをもっと多くのお客様にお届けします。



1月から限定販売した
「クリスタルヴァイツェン」



サッポロライオン
代表取締役社長
三宅 祐一郎

～これまで、これからも、ひたむきに～

これまでも変化の激しい外食業界で、記念すべき創業120周年。これからも130年・150年・200年と続くために、ひたむきに新たな価値を生み出し、今後の成長も実現してまいります。

1899年8月4日、「恵比壽ビヤホール」が、
エビスビールのプロモーション店舗として
銀座の新橋際にオープン



この「恵比壽ビヤホール」が当社の発祥であり、わが国のビヤホールのはじまりです。煉瓦造り2階建ての建物の2階部分で規模は35坪。当時としては極めてモダンな店で開店当初から東京中の話題を集めることとなりました。遠方から馬車でやってくる人もいたそうで、1日の来客数は平均800人に達しました。

社名 株式会社サッポロライオン
本社事務所 〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿1-23-23
恵比寿スクエア6F
創業 1899年8月4日
創立 1949年9月1日
資本金 48億7,821万円
売上高 240億2,300万円
(2018年12月期)

History

- 1899 8月4日創業
東京・銀座の新橋際に「恵比壽ビヤホール」が開店。
- 1934 銀座七丁目にビヤホール開店
大日本麦酒(株)本社社屋として新築されたビル1階でビヤホールを開店。
(現・銀座七丁目店)



銀座七丁目店竣工当時

- 1979 9月1日、サッポロ共栄(株)から「(株)サッポロライオン」に社名変更。
- 1999 創業100周年
創業日である8月4日を「ビヤホールの日」と宣言。「(日本記念日協会)認定」
- 2003 サッポログループの純粋持株会社に参画
サッポログループの純粋持株会社を柱とする事業再編に参画。
- 2019 創業120周年

ビール 再強化宣言

好調な黒ラベルの継続的伸長と明年130周年を迎えるエビスブランドのスケールアップを中心に、ビールブランドの強化を継続し、市場でのサッポロビールの存在感を拡大していきます。

黒ラベル

昨年は、長くご愛飲いただいている黒ラベルファンの皆様の応援をはじめ、リアルなブランド体験の浸透や若年層のファン獲得が功を奏し、びん・缶・樽を合わせた「サッポロ生ビール黒ラベル」計で4年連続売上アップを果たしました。

本年は、引き続き「完璧な生ビールを。実感・体験」をテーマに、大人に愛される「完璧な生」を体現した良質な世界観&飲用体験を拡大していきます。

また、4月1日「黒ラベルの日」に向けて、「サッポロ生ビール黒ラベル」をリニューアルします。原料・製法・

お客様の口が届くまでの徹底した品質管理に加え、製造方法のさらなる工夫により、生ビールの重要な要素である「泡」をさらに「白く美しく」進化させました。「完璧な生ビール」を追求した黒ラベルにぜひご期待ください。



エビス

本年、「エビスビール」は、「ここに、ニッポンの幸せ。」をテーマにコミュニケーションを展開していきます。新CMには歌舞伎役者の中村勘九郎さんを起用し、優雅かつ力強い舞いや衣装で、「エビスビール」の伝統と革新性を表現しています。

また、2月26日より「エビス プレミアムエール」を全国で通年発売しました。本商品は、120年以上の歴史を誇るエビスが満を持して発売する、本格エールタイプのビールです。柑橘の様な香りと称賛されるホップ「カスケード」を一部使用し、エビスが培ってきた技術を詰め込むことで、“ひとり時間”にふさわしい「濃密な香り・コク・余韻」を実現しました。何もかも忘れて贅沢な味わいの余韻に浸る、豊かなひとときをお楽しみください。



サッポロビール ポッカサッポロフード&ビバレッジ

サッポロ独自の新しい価値提案

ポッカサッポロのレモン研究の強みを活かし、サッポロビールの酒類事業において独自の新しい価値を提案します。今後もグループ内のシナジーを加速させ、サッポログループならではの価値提案でブランドの個性を磨きます。

4/2
新発売

「サッポロ レモン・ザ・リッチ」新発売

サッポロビールでは、4月2日に「サッポロ レモン・ザ・リッチ」の3アイテムを全国で新発売します。本商品は、開発に5年の歳月をかけてたどり着いた、果汁の質に徹底的にこだわる“進化系レモンサワー”です。「レモンの良いところを選びすぎたリッチなサワー」をコンセプトに、香り高く深みのある濃い味わいを実現しました。TVCMには松岡昌宏さんにご登場いただき、その魅力をお伝えしていきます。レモンにこだわったリッチな美味しさを、ぜひお楽しみください。



Voice

“開発担当とレモン商品のマーケティング担当が語る” 開発背景とこだわり

(左) サッポロビール
新価値開発部 第2新価値開発グループ
野並 祐介



(右) ポッカサッポロフード&ビバレッジ
マーケティング本部 食品ブランド戦略部
レモン食品グループ
有馬 忠宏

Q 本商品を開発した背景は？

外食市場でレモンサワーがブームになり、中でも“進化系”と呼ばれるレモンにアレンジを加えたこだわりのサワーが登場してきたため、レモンカンパニーであるポッカサッポロ社をグループに持つ当社として、レモンにこだわった商品が必要と考え、開発に着手しました。

Q この商品の一番のこだわりは？

レモンの濃い味わいを実現するために採用したポッカサッポロ社開発のレモン果汁原料です。

この原料は、レモン果汁に「レモンオイル」「レモン果皮」「レモンパルプ」をブレンドすることで、“搾った瞬間のようなおいしさ”を再現しています。

多くのチューハイが果汁の“量”で差別化する中、レモン・ザ・リッチは、レモンの良いところを選びすぎたレモン果汁という“質”にこだわったレモンで勝負します。

Q ポッカサッポロ社が開発したレモン果汁原料とは？

今回、本商品に使用しているレモン果汁原料は、当社からは業務用商品^(※)として販売しています。

開発にあたり「ホテルで朝に飲む、フルーツを搾って飲むフレッシュジュース」のようなおいしさを目指しました。

※商品名「プロフェッショナルスクィーズ シチリアレモン果汁100%」

Q ポッカサッポロならではのレモンの強みとは？

当社は、60年以上にわたりレモン事業を手掛け、「ポッカレモン100」や「キレートレモン」を始めレモン商品を数多く展開しており、レモン果汁を扱うノウハウやサプライヤーとの強い関係性がありました。このレモン果汁原料の開発にあたっては、イタリアの中でもレモンの一大産地であるシチリアまで自ら足を運び、現地のサプライヤーと共に開発しました。レモンにこだわり抜く当社だからこそ、実現できた原料です。

サッポロホールディングス

ESGインデックスへの組み入れ

サッポロホールディングスは、2018年に、英国FTSE Russell社による世界の代表的なESG(環境、社会、ガバナンス)投資指標である「FTSE4Good Index」の構成銘柄に15年連続で選定されました。

また、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)も採用している日本企業のESG指標「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄にも2年連続で選定されています。



サッポロホールディングスが組み入れられているESGインデックス

神州一味噌

パパッと味噌パウダー発売

～これ1本で味付け簡単!みそ汁に、料理に～

神州一味噌ではこの春、だし入りの味噌をそのままフリーズドライにした「パパッと味噌パウダー」を新発売しました。

振り出せるキャップの付いたボトル入りなので、「味噌を振りかける」という全く新しい使い方ができます。そのうえ、パウダーだから溶けやすく、味付けがこれ1本で決まります。溶かすだけでみそ汁ができ、炒め物やサラダなどのいつもの料理にも簡単にコク増しができ、レシピの幅が広がります。

今後も、当社独自の提案により、新たな食の価値を創造していきます。



パパッと味噌パウダー
(詰め替え用もあり)

ポッカサッポロフード&ビバレッジ

豆乳ヨーグルト 製造ライン稼働開始!

～従来の小型容器に加え、
新たに大型容器の製造も可能に～



ポッカサッポロは、豆乳ヨーグルトのさらなる事業拡大を図るため、群馬工場内に原料豆乳の搾汁設備を含む豆乳ヨーグルトの製造ラインを新設し、3月22日より稼働を開始しました。同ライン稼働により、従来販売していた小型容器に加え、大型容器の製造も可能となり、4月1日より「SOYBIO(ソイビオ)豆乳ヨーグルト プレーン無糖400g紙カップ」を新発売します。今後もお客様のニーズにあわせ、豆乳ヨーグルトのおいしさをお届けしていきます。

SOYBIO(ソイビオ)
豆乳ヨーグルト
プレーン無糖
400g紙カップ

サッポロ不動産開発

恵比寿で「まちづくり」推進

～オフィスビルなど3物件取得～

サッポロ不動産開発は、サッポログループの最重要拠点である恵比寿において、この度新築物件を含むオフィスビルなど3物件を取得し、恵比寿の街のさらなる魅力向上のために「まちづくり」を推進しています。

サッポログループが長きにわたり歴史を刻み、共に歩んできたこの恵比寿の街で、当社は今後もまちづくりを通じて、住む人、働く人、訪れる人に「豊かな時間」「豊かな空間」を提案し、地域の発展に貢献していきたいと考えています。



エルスタンザ代官山



シエブルー恵比寿EAST (仮)Sreed EBISU(スリード エビス)



[サッポロホールディングス]

SBL88乳酸菌を起点とし、研究成果に基づく価値提案を加速

サッポロホールディングスは、SBL88乳酸菌による睡眠の質の改善効果をヒト試験で確認し、雑誌「薬理と治療」(2018年46巻10号)にて論文発表いたしました。SBL88乳酸菌は、自社保有の約700菌株から選抜されたもので、これまでも腸内環境のバランスや肌の潤いなど、ヒト試験での様々な効果が認められています。

今回実施した試験は、睡眠の質に不満を感じている健康な成人男女220名を対象に、SBL88乳酸菌が入った試験食あるいはプラセボ食を4週間摂取いただき、睡眠に関する自覚を評価したものです。その結果、SBL88乳酸菌摂取群はプラセボ群と比べ、起床時の眠気と疲労で有意な改善が認められ、朝すっきり起きられることが分かりました。

10月3日～5日に開催された食品開発展2018(東京)にて本結果



SBL88乳酸菌



をご紹介します、ご好評をいただきました。今後、SBL88乳酸菌の市場拡大を図り、睡眠障害やそれに付随する活動時間帯の疲労感等の課題を解決してまいります。

SBL88乳酸菌の市場展開を起点とし、研究成果に基づく価値提案を加速いたします。特に、SDGs目標としても掲げられる「健康」の課題に対し、サッポロ独自の視点をもって、お客様の豊かな生活に貢献してまいります。ぜひご期待ください。

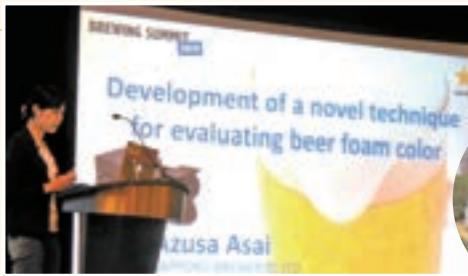


食品開発展2018 (東京)

[サッポロビール]

世界的ビール学会で報告： ビールの「泡の色」を評価

サッポロビールは、ビールの「泡の色」を測定する方法を世界で初めて開発し、鮮度が良いビールの泡がより白いこと、ビール醸造に用いる麦芽の種類により泡の色調が変化することを発見しました。この研究では、「2次元色彩計」という特殊なカメラを用いて、人間の肉眼でしか感じられなかったわずかな泡の色の違いを客観的な数値として評価しています。原料開発から醸造方法に至るまで香味にこだわって研究を行う中、さらに視覚で感じられるおいしさにまで研究を進め、その成果を世界的なビール学会で



Brewing Summit (2018年8月・米国)



サッポロビール
酒類技術研究所
浅井 梓

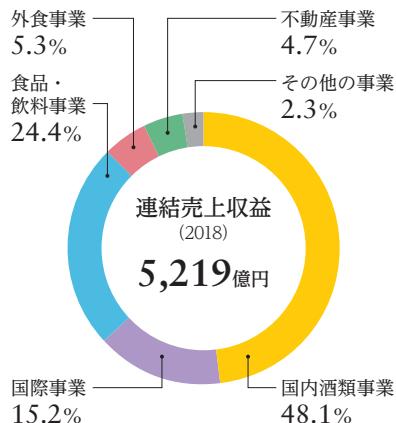
あるBrewing Summit(2018年8月・米国)にて報告しました。

この技術は「サッポロ生ビール黒ラベル」にも利用され、きめ細やかでクリーミーな泡という特徴を持つ同商品が、さらに白く美しい泡に進化しました。今後も、新しい研究成果を商品開発に活かし、お客様に新たな価値をお届けしてまいります。



事業の概況

セグメント別売上収益構成比



セグメント別売上収益

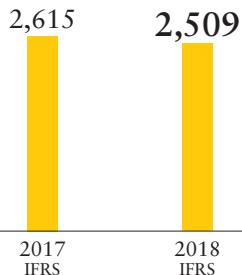
国内酒類事業

2018年売上収益前期比

106 億円減 (△4.1%)



(億円)



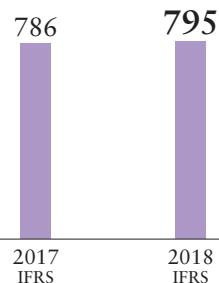
国際事業

2018年売上収益前期比

9 億円増 (1.1%)



(億円)



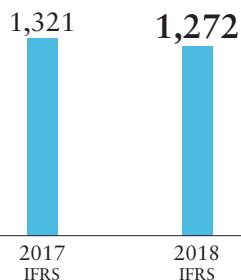
食品・飲料事業

2018年売上収益前期比

49 億円減 (△3.7%)



(億円)



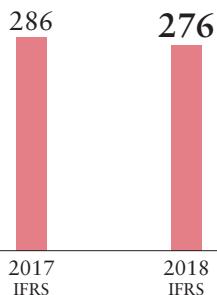
外食事業

2018年売上収益前期比

11 億円減 (△3.7%)



(億円)



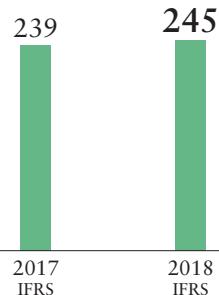
不動産事業

2018年売上収益前期比

6 億円増 (2.5%)



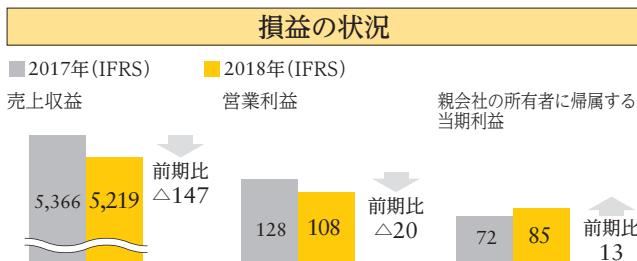
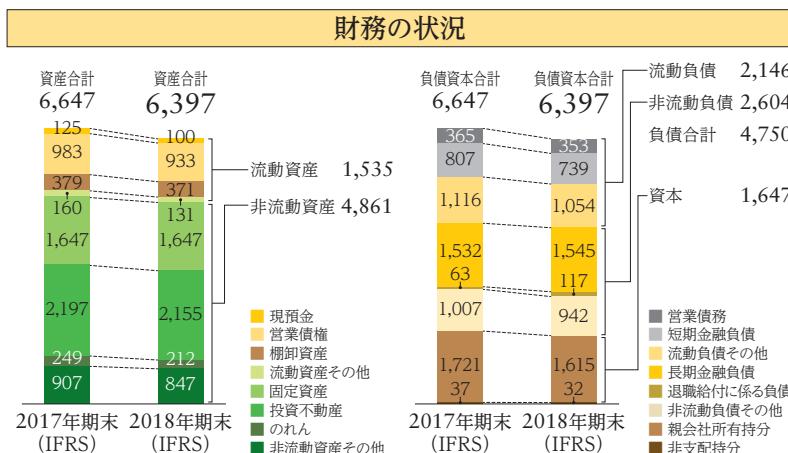
(億円)



※当期より国際財務報告基準 (IFRS) に準拠して連結財務諸表を作成しております。前期につきましても、IFRSに準拠した数値を表示しております。

連結決算概要

★ 連結財務ハイライト (億円)*単位未満四捨五入



売上収益

国内酒類事業の「サッポロ生ビール黒ラベル」やRTD、国際事業のスリーマン社等の売上数量が前期を上回ったものの、発泡酒・新ジャンルの売上数量が前期を下回ったことや、缶コーヒーの市場停滞により食品・飲料事業の飲料売上数量が前期を下回ったことなどから、前期と比較して147億円の減収となりました。

営業利益

サッポロベトナム社の黒字化や、不動産事業の増益があったものの、国際事業においてアンカー社の減損を計上したことや、国内酒類事業及び食品・飲料事業の売上収益の減少に伴い、前期と比較して20億円の減益となりました。

親会社の所有者に帰属する当期利益

国際事業の再編等に伴い、法人税等が減少したことから、前期と比較して13億円の増益となり、親会社の所有者に帰属する当期利益は85億円となりました。

※当期より国際財務報告基準 (IFRS) に準拠して連結財務諸表を作成しております。前期につきましても、IFRSに準拠した数値を表示しております。

資産合計

営業債権及びその他の債権の減少や、のれんの減少、投資有価証券の減少等による非流動資産その他の減少により、前連結会計年度末と比較して250億円減少し、6,397億円となりました。

負債合計

退職給付に係る負債の増加等があった一方、短期金融負債の減少、未払酒税や未払法人税の減少に伴う、流動負債その他の減少等によって、前連結会計年度末と比較して141億円減少し、4,750億円となりました。

資本合計

親会社の所有者に帰属する当期利益の増加があった一方、期末配当の実施、その他有価証券評価差額金の減少等によって、前連結会計年度末と比較して110億円減少し、1,647億円となりました。

キャッシュ・フローの状況

	2017年	2018年	増減	増減率
営業活動によるキャッシュ・フロー	338	308	△30	△8.8%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△179	△187	△9	—
フリーキャッシュ・フロー	159	121	△38	△24.0%
財務活動によるキャッシュ・フロー	△139	△145	△6	—

営業活動によるキャッシュ・フロー

法人所得税等の支払額が増加した一方、営業債権及びその他の債権の減少などにより、営業活動の結果得られた資金は、前期と比較して30億円減少し、308億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

信託受益権 (投資不動産) の売却による収入があった一方、有形固定資産や投資有価証券の取得による支出があったことにより、投資活動の結果使用した資金は、前期と比較して9億円増加し、187億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

社債の発行による収入があった一方、長期借入金の返済や社債の償還による支出があったことにより、財務活動の結果使用した資金は、前期と比較して6億円増加し、145億円となりました。

報告セグメントの変更について

当社は、2019年12月期より報告セグメントを変更することとしました。(セグメント変更の詳細については、P.5-6をご参照下さい。)

グループの持つブランドを育成・強化しながら、確実な成長を目指して、事業軸による国際事業の推進と事業の組替えを実行することにより、これまでの5報告セグメントを3報告セグメントへ変更し、マネジメントアプローチによる管理を一層強化してまいります。

新旧セグメントによる売上収益及び営業利益については、下記の通りです。

(億円)

2018年実績 ※()内は新セグメント	旧セグメント (5事業体制)	新セグメント (3事業体制)	差異	備考
売上収益	5,219	5,219	—	
国内酒類事業(酒類事業)	2,509	3,300	791	
国際事業(—)	795	—	△795	・北米酒類、ベトナム→酒類事業へ 515億円 ・北米飲料→食品飲料事業へ 280億円
食品・飲料事業(食品飲料事業)	1,272	1,613	341	
外食事業(—)	276	—	△276	・酒類事業 276億円
不動産事業(不動産事業)	245	245	—	
その他(その他)	122	60	△62	・神州一味噌→食品飲料事業へ 67億円
営業利益	108	108	—	
国内酒類事業(酒類事業)	67	39	△28	
国際事業(—)	△34	—	34	・北米酒類、ベトナム→酒類事業へ △26億円 ・北米飲料→食品飲料事業へ △8億円
食品・飲料事業(食品飲料事業)	20	12	△9	
外食事業(—)	△2	—	2	・酒類事業へ △2億円
不動産事業(不動産事業)	120	120	—	
全社・その他(全社・その他)	△64	△63	1	・神州一味噌→食品飲料事業へ △1億円

2019年計画 ※()内は新セグメント	旧セグメント (5事業体制)	新セグメント (3事業体制)	差異	備考
売上収益	5,488	5,488	—	
国内酒類事業(酒類事業)	2,641	3,460	819	
国際事業(—)	840	—	△840	・北米酒類→酒類事業へ 545億円 ・北米飲料→食品飲料事業へ 295億円
食品・飲料事業(食品飲料事業)	1,360	1,722	362	
外食事業(—)	274	—	△274	・酒類事業へ 274億円
不動産事業(不動産事業)	246	246	—	
その他(その他)	127	60	△67	・神州一味噌→食品飲料事業へ 67億円
営業利益	126	126	—	
国内酒類事業(酒類事業)	73	97	24	
国際事業(—)	19	—	△19	・北米酒類→酒類事業へ 23億円 ・北米飲料→食品飲料事業へ △4億円
食品・飲料事業(食品飲料事業)	21	17	△4	
外食事業(—)	1	—	△1	・酒類事業へ 1億円
不動産事業(不動産事業)	121	121	—	
全社・その他(全社・その他)	△109	△109	—	・神州一味噌→食品飲料事業へ 0億円

★ 会社概要

商 号 サッポロホールディングス株式会社
(英文 SAPPORO HOLDINGS LIMITED)
設 立 1949年9月1日(創業明治9年)
資 本 金 53,887百万円
事 業 内 容 持株会社
連結対象会社数 59社(連結子会社57社、持分法適用会社2社)
本 社 〒150-8522
東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号
(恵比寿ガーデンプレイス内)

★ 株式の状況

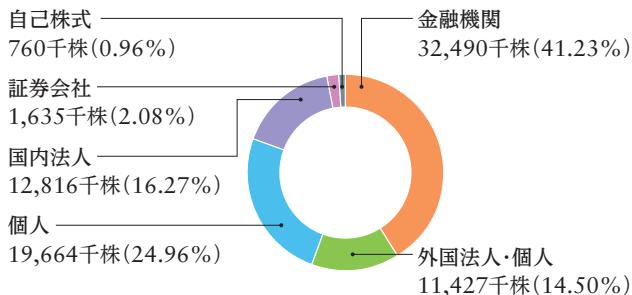
発行済株式の総数 ……………78,794,298株
株主数 ……………67,802名

★ 大株主 (上位10名及びその状況)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,944	7.62
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,337	4.28
資産管理サービス信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ信託銀行口	2,442	3.13
日本生命保険相互会社	2,237	2.87
明治安田生命保険相互会社	2,236	2.87
農林中央金庫	1,875	2.40
丸紅株式会社	1,649	2.11
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	1,594	2.04
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,438	1.84
大成建設株式会社	1,400	1.79

※ 持株比率は自己株式(760,011株)を控除して計算しています。

★ 所有者別株式分布状況



★ 役員 (取締役・監査役・グループ執行役員)

取締役 会長	上條 努	常勤 監査役	溝上 俊男
代表取締役社長	尾賀 真城	監査役	関 哲夫
常務取締役	征矢 真一	監査役(社外)	佐藤 順哉
取締役 部長	福原 真弓	監査役(社外)	杉江 和男
取締役 部長	大平 靖之	常務グループ執行役員	高島 英也
取締役 部長	生方 誠司	常務グループ執行役員	岩田 義浩
取締役(社外)	鶴澤 静	常務グループ執行役員	三宅 祐一郎
取締役(社外)	マッケンジー・クラフト	グループ執行役員	時松 浩
取締役(社外)	福田 修二	グループ執行役員	岸 裕文
			花澤 靖弘

IRサイトのご案内

当社ホームページではIR情報や決算情報をはじめとした情報開示を行っております。



URL <http://www.sapporoholdings.jp/ir/>

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月
配当金受領の株主確定日	12月31日及び 中間配当を実施するときは6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 (フリーダイヤル)0120-288-324
公告方法	電子公告 http://sapporoholdings.jp/ ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します。

株式事務に関するご案内

配当金の口座振込の制度をご存知ですか？

配当金を郵便局の窓口でお受け取りの場合

- 受け取り忘れのリスクがあります。
- 郵便局へ行く手間がかかります。

配当金の振込指定の場合

ご指定の口座に振り込まれるため、配当金のお支払い開始日に安全かつ確実に配当金のお受け取りができます。

■ お手続きに関するお問い合わせ先

- 証券会社に口座をお持ちの株主様は、お取引口座のある証券会社へお問い合わせください。
- 特別口座に記録されている株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部へお問い合わせください。

特別口座からの振替のお手続きはお済みですか？

特別口座に記録された株式は、単元未満株式(100株に満たない株式)の買取・買増請求を除き、売買や譲渡等のお取引を行うことができません。特別口座に記録された株式の取引を行うためには、証券会社に取引口座を開設していただくうえで、特別口座から証券取引口座に振替を行っていただく必要があります。

特別口座から証券取引口座への振替をご希望の株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部へお問い合わせのうえ、お手続きをお願いします。

第95回 定時株主総会決議ご通知

2019年3月28日開催の第95回定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

記

報告事項

1. 第95期(2018年1月1日から2018年12月31日まで)事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第95期(2018年1月1日から2018年12月31日まで)計算書類報告の件

決議事項

第1号議案 剰余金の配当の件

本案は、原案のとおり承認可決され、期末配当は1株につき42円と決定しました。

第2号議案 取締役9名選任の件

本案は、原案のとおり、取締役に上條努、尾賀真城、征矢真一、福原真弓、鶴澤静、マッケンジー・クラグストンの6氏が再選され、新たに、大平靖之、生方誠司、福田修二が選任され、就任しました。なお、鶴澤静、マッケンジー・クラグストン、福田修二の3氏は社外取締役であります。

第3号議案 監査役1名選任の件

本件は、原案のとおり、監査役に溝上俊男が選任され、就任しました。

第4号議案 補欠監査役1名選任の件

本件は、原案のとおり、補欠監査役に飯塚孝徳氏が選任されました。なお、同氏は社外監査役の補欠監査役として選任されております。

※各議案の詳細につきましては、当社IRサイトにてご確認くださいませようお願いします。

以上

エビスVIPメンバーズ

～エビスビール年間定期お届けサービスのご案内～



全国の
エビスビールファンのみなさまへ

毎年ご好評いただいております「エビスVIPメンバーズ」を、今年もサッポロビールネットショップKANPAI+限定で募集します。エビスVIPメンバーズ“限定”のグッズやイベントをご用意し、エビスファンのみなさまからのお申し込みをお待ちしております。下記よりKANPAI+のメルマガにご登録いただければ、2019年度の募集開始とともに詳細をご案内いたします。

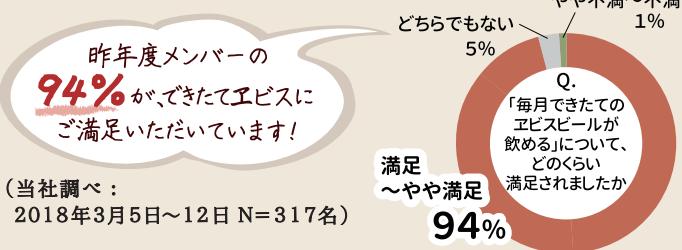
好評につき、今年も募集いたします！

募集期間 5月7日(火)10時～6月17日(月)10時 販売価格 限定600名様 69,630円<税抜・送料込>

昨年度の特典内容を一部ご案内

特典1 毎月できたてのエビスが飲める！

毎月、製造後10日以内のエビスビール1ケース(350ml缶×24本)を工場より発送し、お届けします。
※2018年6月～2019年5月までの計12回



特典2 お好きなお届けコースが選べる！

エビスビールだけではなく限定品も楽しみたい方のために、発売日当日に限定品をお届けするコースもお選びいただけます。

コースA エビスビールのみお届けするコース
1年間、毎月下旬頃エビスビール1ケースをお届けします。

コースB 限定のエビスもお届けするコース
年に数回、エビスビールに代わり限定発売のエビスを発売日当日にお届けします。
※「製造後10日以内」「下旬のお届け」の対象外となります。

その他 ラッキーエビス、YEBISU BARお食事券、イベント等の特典をご用意しております。

まずは、会員登録とKANPAI+のメルマガ購読にチェック！

サッポロビールネットショップ

検索



発行者：サッポロホールディングス株式会社
〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号(恵比寿ガーデンプレイス内)